

平成18年度 益子町における 人事行政運営等の状況について

平成18年度の益子町における人事行政運営等の状況について公表します。これは、人事行政の運営等の状況を町民の皆様に公表することにより、人事行政の公平性・透明性を高めることを目的としています。

対象は、一般職員のみとしていますので、町長などの特別職(教育長含む)や嘱託職員、臨時職員は対象外となります。また、公表値は平成18年度中の数値となります。なお、一部事務組合への派遣職員の取り扱いについては各項目ごとで異なりますが、特に断りがない限り、以下のとおりとしました。

派遣先	派遣職員数	給与の支給	集計に含めるか否か
芳賀地区広域行政事務組合	1人	町から支給	含める
芳賀郡中部環境衛生事務組合	2人	町から支給	含める
芳賀中部上水道企業団	1人	派遣先から支給	含めない

1 職員の競争試験の状況

(1) 職員の競争試験の状況

18年度に実施した次年度採用職員の競争試験状況は、以下のとおりです。なお、17年度に実施した次年度採用職員の競争試験の状況は、競争率が一般事務職4.7倍でした。採用者数については、2(1)①を参照してください。

職種区分	申込者数	第1次試験受験者数 A	第1次試験合格者数	最終合格者数 B	競争率 A/B
一般事務職	17人	13人	7人	3人	4.3倍

2 職員の採用、異動、退職等に関する任免の状況

(1) 職員採用の状況

① 試験採用の状況

18年4月1日付けの試験による採用者は、以下のとおりです。なお、17年度の採用者は、一般事務職3人、保健師1人、管理栄養士1人でした。

職種区分	一般事務職
採用者数	3人

② 選考採用の状況

18年度は選考による採用者はありませんでした。

(2) 再任用職員の実施状況

① 制度の概要

益子町の定年退職者等を従前の勤務実績等に基づく選考により、1年を超えない範囲内で任期を定め、常時勤務を要する職または短時間勤務を要する職に採用することができます。任期は1年を超えない範囲内で65歳(ただし、65歳は制度完成時。任期の最終年齢は下の表のとおり段階的に引き上げ)まで更新することができます。

任期の末日の 属する区分	13年4月1日～ 16年3月31日	16年4月1日～ 19年3月31日	19年4月1日～ 22年3月31日	22年4月1日～ 25年3月31日	25年4月1日～
任期の最終年齢	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳

② 在職状況

18年度は再任用職員の在職実績はありませんでした。

(3) 職員の退職の状況

18年度中の退職者は、以下のとおりです。なお、17年度中の退職者は、10人(定年退職4人、定年前早期退職4人、普通退職1人、再任用期間満了1人)でした。

区分	定年退職	定年前 早期退職
人数	3人	6人

(4) 職員の人事異動の状況

18年度の人事異動の状況は、以下のとおりです。

課長級	課長補佐級	係長	主査	主任	主事・主事補	技能労務職	計
2人	7人	8人	9人	10人	5人	—	41人

注1 派遣職員も含む。

注2 7月1日付け異動(対象者:7人)も含む。

(5) 職員の役職別在職状況

18年4月1日現在の役職別在職状況は、以下のとおりです。

課長級	課長補佐級	係長	主査	主任	主事・主事補	技能労務職	計
14人	12人	30人	28人	38人	19人	21人	162人

(6) 職員の年齢階層別在職状況

18年4月1日現在の年齢階層別在職状況は、以下のとおりです。

区分	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60歳以上	計
人数	—	6人	21人	19人	21人	12人	26人	34人	23人	—	162人

(7) 職員の職種別職員数

18年4月1日現在の職種別職員数は、以下のとおりです。

区分	一般事務職	保健師	管理栄養士	看護師	技能労務職	計
人数	132人	7人	1人	1人	21人	162人

(8) 職員の定員管理の状況

① 部門別職員数の状況と主な増減理由

部門別職員数と主な増減理由は、以下のとおりです。なお、職員数は各年ともに4月1日現在です。

部門	区分	職員数		対前年 増減数	主な増減理由
		平成17年	平成18年		
一般行政部門	議会	3人	3人	0人	
	総務	30人	29人	△1人	印刷業務員不補充
	税務	13人	13人	0人	
	農林水産	18人	17人	△1人	地籍調査体制の見直し
	商工	5人	4人	△1人	公益法人への派遣終了
	土木	11人	11人	0人	
	民生	10人	10人	0人	
	衛生	17人	16人	△1人	事務分担の見直し
	小計	107人	103人	△4人	参考 人口1,000人当たりの職員数 4.05人 (類似団体の人口1,000人当たりの職員数 6.63人)
特別行政	教育	46人	42人	△4人	事務分担の見直し・欠員業務(学校公仕・給食調理)の臨時職員化
	小計	46人	42人	△4人	参考 人口1,000人当たりの職員数 5.70人 (類似団体の人口1,000人当たりの職員数 8.61人)
公営企業等 会計部門	下水道	5人	5人	0人	
	その他	11人	13人	2人	包括支援センター発足(介護保険事業関係)
	小計	16人	18人	2人	
合計		169人 (205人)	163人 (205人)	△6人 (0人)	参考 人口1,000人当たりの職員数 6.41人

注1 職員数は、一般職に属する職員数であるため教育長と芳賀地区広域行政事務組合(1人)・芳賀郡中部環境衛生事務組合(2人)派遣職員は含むが、芳賀中部上水道企業団派遣職員(1人)は含まない。

注2 ()書きは、益子町職員定数条例の定数である。

注3 人口は、25,448人(18年3月31日現在)

② 定員適正化計画の年次別進捗状況(実績)について

17年度から21年度の5か年における定員適正化計画および進捗状況は、以下のとおりです。

部門	区分	17年	18年	19年	20年	21年	22年	17年~18年 計	(参考) 数値目標
		計画始期	1年目	2年目	3年目	4年目	計画完成時		
一般行政	職員数	107人	103人	(103人)	(102人)	(100人)	(99人)	—	99人
	増減		△4人	(0人)	(△1人)	(△2人)	(△1人)	△4人 (50.0%)	△8人
教育	職員数	46人	42人	(42人)	(41人)	(40人)	(39人)	—	39人
	増減		△4人	(0人)	(△1人)	(△1人)	(△1人)	△4人 (57.1%)	△7人
公営企業 等会計	職員数	16人	18人	(17人)	(17人)	(17人)	(17人)	—	17人
	増減		2人	(△1人)	(0人)	(0人)	(0人)	2人 (-200%)	1人
計	職員数	169人	163人	(162人)	(160人)	(157人)	(155人)	—	155人
	増減		△6人	(△1人)	(△2人)	(△3人)	(△2人)	△6人 (37.5%)	△14人

注1 職員数の取り扱いは、2(8)①と同じ。

注2 計画期間は、17年～21年の5年間である。

注3 (%)内の数値は、数値目標に対する進捗率を示す。

注4 増減は、各年の欄にあつては対前年比の職員増減数を、計の欄にあつては計画1年目以降現年までの職員増減数の累計を示す。

注5 「18年1年目」については実績値、「19年2年目」以降は目標数値(網掛け部分)となっている。

3 職員の給与の状況

(1) 人件費の状況

18年度の普通会計決算額による人件費は、以下のとおりです。普通会計決算額であるため、特別会計人件費(公共下水道事業特別会計・農業集落排水事業特別会計・介護保険特別会計)に属する職員の人件費は含まれていません。また、ここでの人件費には、議員、各種委員会委員、特別職等の報酬・給与・職員共済費等が含まれています。なお、17年度普通会計決算額における人件費率は、21.2%でした。

住民基本台帳人口 H19.3.31現在	歳出額 A	実質収支額	人件費 B	人件費率 B/A*100
25,312人	6,609,109千円	244,679千円	1,390,876千円	21.0%

(2) 職員給与費の状況

18年度決算額における一般職員の給与費(普通会計・特別会計含む)は、以下のとおりです。

区分	職員数 A	給与費				一人当たりの 給与費 E/A
		給料 B	職員手当 C	期末・勤勉手当 D	計 E=B+C+D	
一般事務職等	141人	560,113千円	53,993千円	226,371千円	840,477千円	5,961千円
技能労務職	21人	78,939千円	6,155千円	31,186千円	116,280千円	5,537千円
給食調理員	7人	25,997千円	983千円	10,072千円	37,051千円	5,293千円
自動車運転手	4人	15,718千円	2,508千円	6,484千円	24,709千円	6,177千円
その他の技労職	10人	37,225千円	2,664千円	14,630千円	54,519千円	5,452千円
計	162人	639,052千円	60,148千円	257,557千円	956,757千円	5,906千円

注1 単位未満四捨五入の関係で、「計」が合致しないこともある。

注2 「一般事務職等」とは、一般事務職、保健師、管理栄養士および看護師を指す(以下同じ)。

注3 年度途中で退職した職員に係る給与も含む。

(3) 職員の平均給料月額および平均年齢の状況

18年度決算額における職員の平均給料月額および平均年齢は、以下のとおりです。17年度における平均給料月額は、一般事務職等337,096円、技能労務職310,684円でした。

区分	平均給料月額	平均年齢
一般事務職等	331,036円	41歳8ヶ月
技能労務職	313,249円	51歳6ヶ月
給食調理員	309,482円	48歳9ヶ月
自動車運転手	327,450円	54歳10ヶ月
その他の技労職	310,205円	52歳2ヶ月
計	328,730円	43歳0ヶ月

注 平均年齢については、平成18年4月1日現在である。

(4) 職員の初任給の状況

18年4月1日現在の職員の初任給の状況は、以下のとおりです。

区分	一般事務職			技能労務職		
	大学卒	短大卒	高校卒	大学卒	短大卒	高校卒
決定初任給	159,700円	148,000円	138,400円	157,000円	145,100円	135,600円

(5) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額

18年4月1日現在の経験年数別・学歴別平均給料月額は、以下のとおりです。なお、「経験年数」とは、大学等卒業後直ちに採用され、引き続き勤務している場合の採用後の年数を指しています。

経験年数	一般事務職			技能労務職		
	大学卒	短大卒	高校卒	大学卒	短大卒	高校卒
10年	268,500円 10年	224,400円 8年	238,900円 12年	—	—	216,100円 10年
15年	327,500円 15年	300,400円 15年	276,800円 14年	—	—	—
20年	386,500円 20年	307,700円 18年	307,700円 18年	—	—	250,400円 20年

注1 経験年数に近似の職員がない項目は、空白とした。

注2 表内の上段は平均給料月額、下段はその経験年数である。

(6) 一般事務職等の級別職員数の状況

18年4月1日現在の一般事務職等における級別職員数の一覧は、以下のとおりです。なお、18年度は給与構造改革が行われ、これまで8級制であったものが6級制に改められました。

区分	職務の名称	職員数	構成比
1級	主事、技師、保健師、管理栄養士、看護師、主事補、技師補の職務	19人	13.5%
2級	主任の職務	18人	12.8%
3級	係長、主査、困難な業務を所掌する主任の職務	37人	26.2%
4級	副主幹、困難な業務を所掌する係長・主査の職務	41人	29.1%
5級	主幹、課長補佐、室長補佐の職務	12人	8.5%
6級	課長、室長、重要な業務を所掌する主幹の職務	14人	9.9%
計		141人	100%

(7) 職員手当の状況

① 期末・勤勉手当

18年度における期末・勤勉手当の支給月数は、以下のとおりです。なお、給与構造改革により勤勉手当の支給について勤務成績によることとされたため、実際の支給については各期別とも一般職員0.71月、特定幹部職員0.91月でした。

区分	一般職員			特定幹部職員		
	期末手当	勤勉手当	計	期末手当	勤勉手当	計
6月期	1.4月 (0.75月)	0.725月 (0.35月)	2.125月 (1.1月)	1.2月 (0.65月)	0.925月 (0.45月)	2.125月 (1.1月)
12月期	1.6月 (0.85月)	0.725月 (0.40月)	2.325月 (1.25月)	1.4月 (0.75月)	0.925月 (0.50月)	2.325月 (1.25月)
計	3.0月 (1.6月)	1.45月 (0.75月)	4.45月 (2.35月)	2.6月 (1.4月)	1.85月 (0.95月)	4.45月 (2.35月)

注1 「特定幹部職員」とは、課長、室長、局長および主幹の職にある者を指す。

注2 ()内は、再任用職員に係る支給割合である。

注3 行政職給料表3級以上の者に対しては、加算措置(5/100~15/100)がある。

②退職手当

益子町は栃木県市町村総合事務組合(以下、総合事務組合)に加入しており、退職手当の共同処理を委託しています。退職手当は総合事務組合の「一般職の職員の退職手当に関する条例」に基づき支給されています。なお、19年3月31日現在の支給月数等については、以下のとおりです。

支給率	勤続区分	自己都合	勸奨・定年
	勤続20年	23. 5月	30. 55月
	勤続25年	33. 5月	41. 34月
	勤続30年	41. 5月	50. 7月
	最高限度額	59. 28月(45年)	59. 28月(35年以上)
18年度退職者の1人当たりの平均支給額		—	24, 543千円
加算措置の状況		定年前早期退職特例措置(3~30%) (ただし、20年3月31日までの時限的措置)	

③その他の手当

その他の手当については、以下のとおりです。なお、管理職手当については、条例上の支給率は課長12%、課長補佐10%ですが、17年度から当分の間、課長6%、課長補佐5%としています。

手当名	概要	支給月額等
管理職手当	管理職員(課長・課長補佐等)に対して支給	課長:給料の6% 課長補佐:給料の5%
扶養手当	配偶者、子など扶養親族のある職員に対して支給	配偶者:13, 000円 扶養2人まで:6, 000円 他1人につき:5, 000円
住居手当	本人の所有、または借り受けている住宅を有する職員に対して支給	持ち家:2, 500円 (新築後5年まで) 借家:上限27, 000円
通勤手当	片道2km以上を自家用車等で通勤する職員に対して支給	自家用車等を使用の場合通勤距離数に応じて、3, 000円~21, 000円など
時間外勤務手当	正規の時間外に勤務することを命じられた職員に対して支給(管理職以外に支給)	時間外勤務の勤務時間に応じて、125/100~165/100の割合の時間外手当を支給
当直手当	当直勤務を命じられた職員に対して支給	1回につき、4, 200円
管理職員特別勤務手当	週休日、または休日等に勤務を命じられた管理職に対して支給	課長:6, 000円 課長補佐:5, 000円
特殊勤務手当	感染症の予防、死体収容、税務事務に従事する職員に対して支給(ただし、税務事務従事者への特殊勤務手当は、支給を凍結中)	感染症予防:1, 000円/1日 死体収容:3, 000円/1体 税務事務:1, 500円/1月

4 職員の勤務時間、休暇及び旅費等に関する勤務条件の状況

(1) 職員の勤務時間

18年度における職員の勤務時間は、以下のとおりです。フォレスト益子・生涯学習課では利用状況に合わせた週休日の変更を行い、小中学校・給食センターでは児童・生徒の時間割に合わせた勤務時間の割り振りを行っています。

区分	1週間の勤務時間	開始時間	終了時間	休息时间	休憩時間	週休日
本庁等	40時間	8:30	17:15	12:00~12:15 15:00~15:15	12:15~13:00	土曜日・日曜日
フォレスト益子	40時間	8:30	17:15	12:00~12:15 15:00~15:15	12:15~13:00	火曜日・水曜日
学校教育課 (小・中学校)	40時間	7:30	16:15	9:00~ 9:10 11:50~12:00 14:40~14:50	9:50~10:10 12:30~12:55	土曜日・日曜日
学校教育課 (給食センター)	40時間	8:00	16:45	10:00~10:15 15:00~15:15	12:15~13:00	土曜日・日曜日
生涯学習課 (公民館等)	40時間	8:30	17:15	12:00~12:15 15:00~15:15	12:15~13:00	日曜日・月曜日

注1 学校教育課(小・中学校)は、小・中学校勤務の町職員(技能労務職)の例示であり、学校によっては異なる。

注2 平成19年4月からは、勤務時間を8:30~17:30とした。

注3 毎週金曜日、税務課および住民課は19:00まで業務時間の延長を行っている(祝日・年末年始は除く)。

(2) 年次有給休暇の取得状況

18年度の年次有給休暇の取得状況は、以下のとおりです。年次有給休暇は、職員の在職期間に応じて各年に最高20日分付与され、現年度付与分が残った場合はその残存日数を次年度に繰り越せます。また、取得は1日または1時間単位で可能です。なお、17年度の平均取得日数は、11日2時間(取得率29.1%)でした。

対象職員数 A	総付与日数 B	総取得日数 C	平均取得日数 C/A	取得率 C/B*100
159人	6,140日	1,642日7時間	10日3時間	26.8%

注1 派遣職員について、派遣期間中の取得状況は考慮していない。

注2 育児休業中の職員については対象外とした。

(3) 時間外勤務及び休日勤務の状況

時間外勤務と休日勤務の状況は、以下のとおりです。なお、18年度は生涯学習課の週休日を日曜日・月曜日とする勤務形態の見直しを行った影響もあり、時間外勤務等が減少しました。

年度	対象職員数 (管理職員以外)	時間外・休日 勤務総時間数	職員一人当たりの 時間外・休日勤務時間数
18年度	135人	8,402時間	62時間14分
17年度	140人	9,513時間	67時間57分

注 派遣職員について、派遣期間中の勤務状況は考慮していない。

(4) 特別休暇等の状況

結婚、産前・産後など社会慣習上、勤務しないことがやむを得ない場合に認められる休暇が特別休暇です。特別休暇の種類は、以下のとおりです。

休暇の種類	付与日数・期間等	有給・無給
公民権行使(選挙権の行使など)のための休暇	必要と認められる期間	有給
公の職務執行(国会、裁判所等への出頭)のための休暇	必要と認められる期間	有給
骨髄液提供のための休暇	必要と認められる期間	有給
社会貢献活動(被災地支援等)のための休暇	1年度につき5日の範囲内の期間	有給
結婚休暇	結婚の日の5日前の日から結婚の日後1月を経過するまでの連続する5日の範囲内	有給
生理休暇	2日を超えない範囲内での期間	有給
妊産婦の健康診査等のための休暇	妊娠満23週までは4週間に1回、妊娠満24週から満35週までは2週間に1回、妊娠満36週から出産までは1週間に1回、産後1年まではその間に1回(医師等の指示があった場合はいずれの期間においてもその都度)、必要と認められる期間	有給
妊婦の通勤緩和のための休暇	正規の勤務時間の始め又は終わりにおいて、1日を通じて1時間を超えない範囲内で必要と認められる期間	有給
産前休暇	6週間(多胎妊娠の場合にあっては、14週間)以内に出産する予定である女性職員が申し出た期間	有給
産後休暇	出産の日の翌日から8週間を経過するまでの期間	有給
授乳休暇	生後1年に達しない子を育てる職員で、1日2回各30分以内又は1日1回60分以内の期間	有給
妻の出産休暇	出産に係る入院等の日から出産後2週間を経過する期間内における2日の範囲内の期間	有給
妻の出産に係る子の養育休暇	職員の妻が出産する場合において、出産予定の6週間(多胎妊娠の場合にあっては14週間)前の日から出産の日後8週間を経過する期間内における5日の範囲内の期間	有給
子の看護のための休暇	1年度につき5日の範囲内の期間	有給
忌引休暇	死亡者の区分に応じ、1日から7日の範囲内の期間	有給
法要休暇	父母の追悼のための特別な行事(死後15年以内)で勤務しないことが相当であると認められる場合において、1日の範囲内の期間	有給
夏季休暇	7月から9月までの期間において、3日の範囲内の期間	有給
災害又は交通機関の事故等による休暇	事由に応じ、7日の範囲内の期間又は必要と認められる期間	有給

(5) 育児休業の状況

18年度中における育児休業の状況は、以下のとおりです。育児休業は、その子の満3歳の誕生日の前日までの期間において原則1回取得することができ、原則1回に限り期間の延長をすることが可能です。ただし、育児休業期間中は、無給となります(後述する栃木県市町村職員共済組合などから育児休業手当金が支給されます)。

区分	男性職員	女性職員
育児休業取得可能件数	9件	5件
うち、18年度の新規可能件数	4件	2件
育児休業の承認件数	0件	3件
うち、18年度の承認件数	0件	2件
育児休業期間の延長の承認	0件	2件
うち、18年度の承認件数	0件	2件

(6) 旅費制度の概要

18年度における旅費の制度は、以下のとおりです。

区分	日当	宿泊料
議会の議員、特別職(教育長を含む。)並びに非常勤特別職のうち、教育委員会の委員、選挙管理委員会の委員、監査委員、農業委員会の委員及び固定資産評価審査委員会の委員	当分の間支給しない	13,000円
上記の非常勤特別職以外の職員及び一般職員	当分の間支給しない	12,000円

4 職員の分限及び懲戒処分の状況

(1) 分限処分者及び懲戒処分者数

① 分限処分

分限処分とは、公務の能率の維持や適正運営の確保の目的から、勤務成績不良、心身の故障等のため職員が十分に職責を果たせない場合に、職員の意に反して行う処分です。なお、18年度は該当者がいませんでした。

② 懲戒処分

懲戒処分とは、公務員としてふさわしくない非行があった場合に、職員の一定の義務違反に対する道義的責任を問い、公務における規律と秩序を維持することを目的とした処分です。なお、18年度の該当者は以下のとおりです。

区分	戒告	減給	停職	免職	合計
処分者数	1人	—	—	—	1人

5 職員の研修及び勤務成績の評定の状況

(1) 研修の状況

職員の資質向上・人材育成は益子町においても重要課題となっています。職員の能力開発、自己啓発意欲の促進を目標に、18年度は以下の共同研修へ職員を参加させました。

区分	回数	人数
栃木県市町村職員研修協議会主催	10回	18人
芳賀地区広域行政事務組合主催	16回	50人
国際文化研修所主催	1回	1人
その他	3回	12人

(2) 勤務成績の評定

勤務成績の評定の状況については、以下のとおりです。

目的	職員の執務について勤務成績の評定を統一的去に行い、これを職員の能力開発、指導育成、人事考課などに活用し、職員の勤務能率の発揮とその増進を図り、公正な人事行政を行うことを目的としています。
実施スケジュール	<p>実施スケジュールについては、以下のとおりです。</p> <pre> graph TD subgraph April A1[各課目標編成表とりまとめ] A2[所属課目標編成表の作成] A3[所属課目標編成表の確認] A1 --> A2 A2 --> A3 end subgraph May B1[個人目標シートによる面接] B2[個人目標シート作成、提出] B1 <--> B2 end subgraph December C1[町長と課長級職員の人事評定の協議と、一般職員の2次評定] C2[職員との進捗確認面接と、一般職員の人事評定表作成] C3[課長による進捗確認面接] C2 --> C1 C2 <--> C3 end subgraph Feb_March D1[職員の目標達成度についての指導育成面接] D2[課長による目標達成度についての面接] D1 <--> D2 end A3 --> B1 B2 --> C2 C3 --> D2 </pre>

6 職員の福利厚生状況

(1) 職員の健康管理について

①健康診断の実施

益子町職員安全衛生管理規定に基づき、職員の健康を確保するため健康診断、人間ドックを行っています。18年度中の受診者は、以下のとおりです。なお、人間ドック・健康度測定は、後述する栃木県市町村職員共済組合などから費用の一部が助成されます。

区分	定期健康診断	人間ドック (脳ドック含む)	健康度測定
人数	99人	48人	2人

②健康指導等の実施

職員の健康の保持増進を図るため、産業医により、健康診断に基づく事後管理、一般疾病の予防・治療対策についての相談および保健指導を毎月第4水曜日に実施しています。

(2) 職員の共済制度について

相互救済を目的とする地方公務員等共済組合法の規定に基づき、職員は下記いずれかの共済組合に加入することとなっています。

① 栃木県市町村職員共済組合

職員の大多数が加入しています。事業内容等については下記のとおりです。

区分	概要
短期給付事業	組合員とその家族の病気・けが・出産・休業又は災害に対して必要な給付(療養給付・出産費・埋葬料・育児休業手当金・災害見舞金等)を行う。
長期給付事業	組合員の退職・障害または死亡に対して、年金または一時金の給付(退職共済年金・障害共済年金・遺族共済年金等)を行う。
福祉事業	健康診断などの健康の保持増進事業、保養施設の運営、貸付事業等(人間ドックと健康度測定の助成・保養所利用助成・貯金事業・住宅貸付事業等)などを行う。

② 公立学校共済栃木支部

小中学校に勤務する町職員の中には、栃木県市町村職員共済組合ではなく公立学校共済に加入している職員もいます(18年度の加入者は6名)。事業内容等については、①と同様です。

(3) 職員の厚生制度について

地方公共団体は、職員の保健、元気回復その他厚生に関する事項の計画樹立・実施をすることが義務づけられています。職員が加入している福利厚生団体は、以下のとおりです。

① 益子町職員研修協議会(町独自の福利厚生実施団体)

職員の健康保持・増進を図ることにより勤労意欲を高め、また職員個人の資質の向上を図ることを目的として研修事業を実施しています。18年度の会員は185人(特別職、嘱託職員等を含む)で、町からの補助金(職員1人当たり4,000円)と職員からの会費(1,000円)で運営し、事務局が計画した事業等に対し、会員1人当たり5,000円を補助しています。18年度に実施した研修事業は、ハイキング、ヨガ教室、フットサル教室、豊年盆踊りでした。

② (財) 栃木県教育福祉振興会

公立学校共済に加入している職員で構成されている互助会で、事務局は栃木県教育委員会にあります。教育文化の振興発展への寄与、教育に携わる教職員の服務能率の向上および福利増進を図ることを目的とした事業等を行っています。なお、益子町では公立学校共済加入の職員6人が会員でした。

区分	概要
短期給付事業	会員とその家族の病気・けが・出産・休業又は災害等に対して給付・補助(医療費補助・結婚給付金・出産給付金・弔慰金・休業手当金・災害見舞金・入学祝金・永年勤続祝金等)を行う。
福祉事業	健康診断などの健康の保持増進事業、元気回復事業、研修・教養事業、貸付事業などを行う。

7 職員の勤務条件に関する措置要求及び不利益処分に関する不服申立等の利益保護の状況

益子町では、公平委員会に関する事務を栃木県人事委員会へ委託しています。

(1) 勤務条件に関する措置要求の状況

係属事案はなく、18年度に新たな措置要求はありませんでした。

(2) 不利益処分に関する不服申立の状況

係属事案はなく、18年度に新たな不服申立てはありませんでした。